

- (19) Japanese Patent Office (JP)  
(12) Utility Model Publication (U)  
(11) Utility Model Publication Number: 1993-43861U  
(43) Publication Date: June 15, 1993  
(51) Int. Cl.: A01K 87/06  
Patent Office file Number: B 9123-2B  
Examination Request: Not Requested  
Number of Claims: 2 (3 pages)  
(21) Application Number: 1991-101864U  
(22) Application Date: November 15, 1991  
(71) Applicant: DAIWA SEIKO, INC.  
3-14-16, Maesawa, Higashikurume City, Tokyo  
(72) Inventor: OHYAMA, SANEYOSHI  
Daiwa Seiko, Inc.  
3-14-16, Maesawa, Higashikurume City, Tokyo  
(74) Agent: Attorney YOKOTA, SANEHISA
- (54) [Title of Invention] REEL LEG FIXING DEVICE FOR FISHING ROD
- (57) Abstract  
[Object] It is an object to improve holding function of a holding portion in a reel mounting portion of a fishing rod and to increase holding stability of a fishing rod.  
[Configuration] A cylindrical body 1 which is fittedly secured to a fishing rod or which is directly formed on a rod pipe is integrally formed with a holding portion 4 which is provided with a fixing hood 3 on the downside, a smooth expanded portion 5 is extendedly provided in such way that both sides of the holding portion 4 gradually decrease upward and backward, a floating hood 8 opposed to the fixing hood 3 is mounted on the cylindrical body 1 inside the front end of the expanded portion 5, and a tightening tube 9 for telescopically moving the floating hood 8 is screwed together with a male screw portion 7 formed on the cylindrical body 1, so that the holding portion 4 can be held securely and stably in direction of the fishing rod to make fishing rod operation easy.

[Claims]

- 1 A reel leg fixing device for a fishing rod comprising:  
a holding portion integrally formed with a cylindrical body and provided with a fixing hood 3 on the downside;  
a smooth expanded portion extendedly provided on the upside in such way that both sides of the holding portion gradually decrease;  
a floating hood opposed to the fixing hood and fittedly mounted on the cylindrical body inside the front end of said expanded portion so as to form a reel leg contact portion between the fixing hood and the floating hood of the cylindrical body;  
and  
a tightening portion screwed together with a male screw portion and provided on the cylindrical body so as to telescopically move said floating hood.

2. The reel leg fixing device for a fishing rod according to claim 1, wherein a rod pipe of the fishing rod functions as a cylindrical body simultaneously.

[Brief Explanation of Drawing]

[FIG. 1] a vertical cross sectional front view of the present invention

[FIG. 2] a front view of the same

[FIG. 3] a cross sectional view taken along the line A -A in FIG. 1

[FIG. 4] a cross sectional view taken along the line B -B in FIG. 1

[FIG. 5] a cross sectional view taken along the line C -C in FIG. 1

[FIG. 6] a vertical cross sectional front view of another embodiment of the present invention

[Explanation of Reference Numeral]

- 1 Cylindrical Body  
3 Fixing Hood  
4 Holding Portion  
5 Expanded Portion  
6 Clearance  
7 Male Screw Portion

- 8 Floating Hood
- 9 Tightening Tube
- 11 Rod Pipe

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-43861

(43)公開日 平成5年(1993)6月15日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

A01K 87/06

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 9123-2B

審査請求 未請求 請求項の数2(全3頁)

(21)出願番号 実願平3-101864

(22)出願日 平成3年(1991)11月15日

(71)出願人 000002495

ダイワ精工株式会社

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

(72)考案者 大山 実良

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

ダイワ精工株式会社内

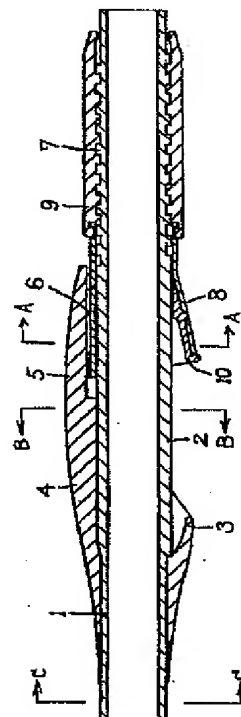
(74)代理人 弁理士 横田 実久

(54)【考案の名称】 釣竿のリール脚固定装置

(57)【要約】

【目的】 釣竿のリール装着部における握り部の握持機能と釣竿の保持安定性の向上を図る。

【構成】 釣竿に嵌着固着されるか又は釣竿の竿管に直接形成される筒状本体1に下側に固定フード3を設けた握り部4を一体的に設け、該握り部4の両側を上側後方に向け漸次欠除して上側に滑らかな膨出部5を延設すると共に前記膨出部5の先端部分の内側における筒状本体1に前記固定フード3と対向する遊動フード8を装着し、該遊動フード8を進退せしめる緊縮筒9を筒状本体1に形成した雄螺子部7に螺合せしめて、握り部4をしっかりとかつ釣竿の方向安定性良く保持して釣竿操作を容易にする。



1

2

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 筒状本体に一体的に設けられかつ下側に固定フードを設けた握り部の両側部を漸次欠除して上側に滑らかな膨出部を延設すると共に前記膨出部の先端部分の内側における筒状本体に前記固定フードと対向する遊動フードを嵌装して固定フードと遊動フード間の筒状本体にリール脚当接部を形成し、更に前記遊動フードを筒状本体に設けた雄螺子部に螺合した緊締筒で進退自在に形成したことを特徴とする釣竿のリール脚固定装置。

【請求項2】 釣竿の竿管が筒状本体を兼用する請求項1記載の釣竿のリール脚固定装置。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の縦断正面図。

【図2】 同正面図。

\* 【図3】 図1のA-A線断面図。

【図4】 図1のB-B線断面図。

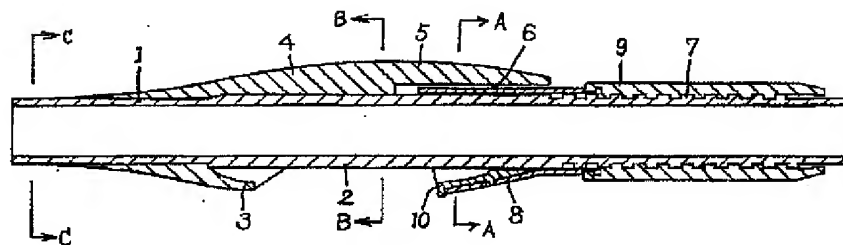
【図5】 図1のC-C線断面図。

【図6】 本考案の別実施例の縦断正面図。

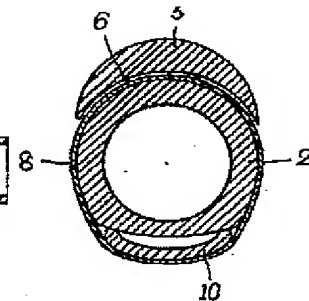
## 【符号の説明】

- 1 筒状本体
- 3 固定フード
- 4 握り部
- 5 膨出部
- 6 空隙部
- 7 雄螺子部
- 8 遊動フード
- 9 緊締筒
- 11 竿管

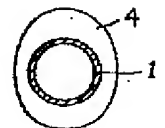
【図1】



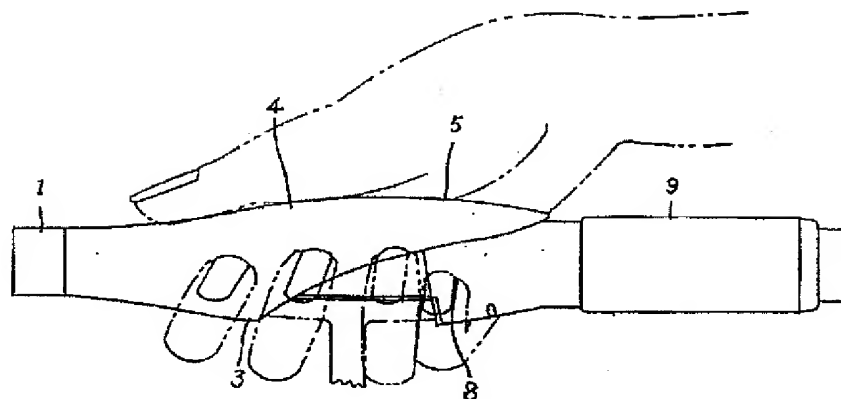
【図3】



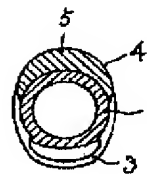
【図5】



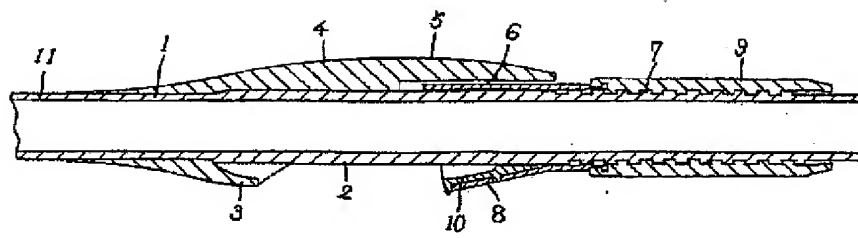
【図2】



【図4】



【図6】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は釣竿に装着するリール脚の固定装置に関する。

**【0002】****【従来の技術】**

釣竿にリール脚を装着固定する手段として、釣竿に嵌着固定した連結筒の両端部に固定フードを設けた断面円筒状の支持筒と遊動フードを設けた回動自在の断面円筒状の支持筒とを対設し、固定フードと遊動フード間にリール脚を支持装着し、握持操作を容易にすることが実公昭53-31267号公報で知られている。

**【0003】****【考案が解決しようとする課題】**

しかかしながら前記方式は、リール脚の装着時において対向する円筒状の支持筒の端部が重合しているため握持部が太く、かつ握持したときの釣竿の方向安定性が悪いと共に重合部の段差が握持する手の掌に当接して長時間釣竿操作するのに不向きであるばかりか、釣竿重量も増加する等の問題点がある。本考案はこれらの欠陥を改善して、握持操作並びに釣竿操作のし易い釣竿のリール脚固定装置を提供することを目的とする。

**【0004】****【課題を解決するための手段】**

本考案は前記目的を達成するために、筒状本体に一体的に設けられかつ下側に固定フードを設けた握り部の両側部を漸次欠除して上側に滑らかな膨出部を延設すると共に前記膨出部の先端部分の内側における筒状本体に前記固定フードと対向する遊動フードを嵌装して固定フードと遊動フード間の筒状本体にリール脚当接部を形成し、更に前記遊動フードを筒状本体に設けた雄螺子部に螺合した緊締筒で進退自在に形成したことである。また前記筒状本体は釣竿の竿管に一体に形成して竿管が兼用するようにすることもできる。

**【0005】**

前記筒状本体のリール脚当接部は少々肉厚に形成すると共にリール脚が当接し易いように他部分の円弧面より緩い円弧面したり、略平面状に形成したりすると共に雄螺子部も肉厚に形成して補強するのが好ましい。また固定フード及び遊動フードには緩衝部材を嵌着してリール脚をガタ付きなくかく傷つけないように装着することもできる。

#### 【0006】

##### 【作用】

本考案はリール脚装着部において、握持する手の親指掌部は筒状本体の握り部の延設した膨出部に、指先は握り部の側部に夫々当接して筒状本体を握持して釣竿操作を行う。

#### 【0007】

##### 【実施例】

本考案の実施例を図面について説明すると、図示されていない釣竿に嵌着固定される筒状本体1の前端部を除く部分は肉厚部2に形成され、前記前端部には下側に固定フード3を設けたり握り部4が固着され、該握り部4はその両側部が上側後方に向け漸次欠除されて上側部に滑らかな膨出部5が延設されると共に該膨出部5の先端部内側には空隙部6が形成され、更に握り部4の後方部における筒状本体1には雄螺子部7が形成されている。

#### 【0008】

また前記空隙部6部分の筒状本体1には、前記固定フード3と対向する遊動フード8が嵌装されると共に該遊動フード8の後端縁には前記雄螺子部7に螺合した緊締筒9が係合し、緊締筒9の回動により前記遊動フード8を進退できるように構成されている。

#### 【0009】

なお前記握り部4は、握り易い柔軟部材で形成するものであるが、握り部4を筒状本体1と一体に形成することもでき、この場合にはその握り部表面に柔軟部材を被着するのが好適であり、更に握り部4の表面形状は前後方向に滑らかな波形状に膨出形成することもできる。また固定フード3及び遊動フード8には必要に応じて緩衝材10を装着することができる。



**【0010】**

本考案の実施例は上記のように構成されているので、釣竿に装着固定した筒状本体1の握り部4に親指及び掌部を、また指先を握り部4とその欠除部に夫々当接してリール装着部を握持して釣竿操作を行うものである。

**【0011】**

前記実施例は、筒状本体1を釣竿と別個に形成してこれを釣竿に嵌着固着したものであるが、図6には釣竿の竿管11自体に筒状本体1を兼用せしめる実施例が示されている。また本考案においては、固定フード3と遊動フード8を前後反対して遊動フード8を釣竿11の先端側に固定フード3が手元側になるように形成しても差し支えない。

**【0012】****【考案の効果】**

本考案は筒状本体のリール装着部を手で握り締めたときに、その親指及び掌部が滑らかな膨出部に当接すると共に握持部における筒状本体の断面が略楕円状に形成されているので、握り部に段差や凹凸が形成されることなく筒状本体をしつかりと円滑に握持できると同時に握持部の断面形状は操作中の釣竿の回転も防止でき、釣竿の方向性を安定させながら釣竿操作を長時間円滑容易に行うことができる。

**【0013】**

また本考案において釣竿の竿管自体に筒状本体を兼用せしめるときには、握り部が必要以上に太くなることも防止できると共に釣竿の軽量化及び魚信の感知性能の向上も図ることができる。